

さいの神

実行委員長 小熊由紀夫

前年の秋、コロナ禍の影響もだいぶ薄れてきた十一月十日に塞ノ神の準備が行われました。この日は好天に恵まれ、トバ作り、葦の採取、細竹と孟宗竹などを切って所定の場所に保管する作業をしました。

そして、年が明けた一月十二日の本番当日。数日前に雪が降ったせいで、除雪はされたものの足場が悪かったが、運よく好天になってくれました。

大勢の人達の前で点火された炎は勢いよく燃え上がり、素晴らしい光景でした。

この日ために準備や除雪・場所の提供をして下さった方々に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



足場の悪い中、大勢の方にご来場いただきました。



子供達と一緒にスルメ用意



竹の伐採、切り出し作業



稲わらを使っのトバ作り



図を用いての組み立て説明



さいの神
準備作業風景

窓



落語に「てんしき」という噺があります。何でも知っている和尚が医者から「てんしき」はあるかと聞かれ、知ったかぶりをして「ありません」と答える。あとで小坊主に「てんしき」が何かを調べさせ、意味を知った小坊主がウソを教えられ和尚が恥をかくという噺です。因みに、「てんしき」とは屁、オナラのこと。権威者の知ったかぶりを笑う話として揶揄する大好きな噺です。

われわれ庶民は権威のある人の言葉はすぐに信じてしまう傾向があるが「ホント?」と疑ってみることも必要なかもしれない。テレビや新聞を無条件で信じている自分を反省しなければと思う。

近年では国の財政が大赤字で、国民一人当たりの借金が一千万円を超えたとして国の破産まで心配されているがホントか?。四人家族で四千万円。絶対ムリと思うでしょう。しかし、殆んど家庭は住宅ローンやマイカーローンを抱えているが破産を心配する人はあまり見かけない。みんな家庭の収入や資産を考慮して借りているからである。ここで疑問が。国も同じではないのか。新聞テレビは報じないが国にも資産があるはず。権威のありそうな評論家の先生で国のバランスシートを作った私のような無知な庶民でもわかるように説明してほしいものだ。案外右側に記入する負債よりも、左側に記入する資産のほうが圧倒的に多かったりするかも。もしもそうならば国民一人当たり一千万超の国の借金は、それこそ「てんしき」でもないのかもしれない。

(まろ)

編集後記

新型コロナウイルスの感染流行がもたらした影響は計り知れない。人どうしの接触が制限され、リモートで仕事をしたり、学校では休校や授業の制限など、日常生活のあらゆる面で感染防止の対策が行われた。その結果、人と人が関わる機会が著しく減少し、人間関係の希薄化を一段と進めてしまったのではないかと感じる。地域の行事は軒並み中止となり、つながる楽しさを奪ってしまった。コロナ禍をようやく抜け出した今、人と人とのつながりを以前のようにする事が地域の皆さんの願いではないかと感じている。

姥ヶ山自治会報はこのたびの発行で「第92号」となる。思い立って過去の自治会報の一部を読み返してみた。どの号も歴代の自治会長や役員の皆さんが、自治会活動や行事・課題に対して誠心誠意尽力された足跡が記されていた。記事を読むにつけ、行事を楽しむ皆さんの姿や協力して作業をする姿がよみがえってくる。姥ヶ山自治会の歴史と伝統を再認識した次第である。今号も地域の皆さんに、一年間の活動を振り返っていただけるものになればと思っている。

